くみあいNEWS☆

第１５２６２号
2021年10月6日(水)
発行責任者
日本製鉄和歌山労働組合
組織教宣部
WAKAYAMA WORKERS' UNION

組合ＨＰ：http://nssmwu.jp/　　代表内線番号　和歌山地区(本部)(54)－3590
堺地区　652990／海南地区(54)－5555

日本製鉄労連「第12回定期大会」報告


青雲会長挨拶

去る９月８日(水)、日本製鉄労連「第12回定期大会」がWeb形式で開催され、和歌山労組からは９名が代議員として参加しました。

第１号議案「第６期運動方針(案)」に対しては19単組から原案賛成の立場で補強意見が出されました。和歌山労組としては、大田代議員より「雇用基盤の確立に向けた企業･グループ経営対策の強化」、「村田きょうこ氏の必勝」の２点について補強意見を述べました。第１号議案をはじめ、第２号議案「2022年度諸会計予算(案)」、第３号議案「役員選挙に関する件(案)」、第４号議案「役員推せん委員会の設置と構成について(案)」、第５号議案「外部団体派遣者の推薦に関する件(案)」、第６号議案「構成規程の一部改訂について(案)」の全てについて、満場一致で可決・決定されました。

最後に行ったがんばろう三唱の際には、青雲会長から「カーボンニュートラルへの超革新的な技術開発・プロセスへの挑戦をはじめエネルギー問題、それに伴うインフラ整備の対応等、環境面と経済性の両面からの議論が必要不可欠であるにもかかわらず、鉄鋼産業の実態を理解をしている国会議員は皆無であり、鉄鋼産業にとって死活問題であるといっても過言ではありません。カーボンニュートラルの実現に向けては政府への働きかけはもちろんのこと、国民一人ひとりの理解も必要となります。そのためにも私たちの代表・代弁者を国政に送り出さなければなりません。もう負けは許されません。来年の第26回参議院議員選挙での村田きょうこ氏必勝に向けて、日本製鉄労連の総力を挙げて取り組もうではありませんか。政策実現の目標必達に向け組合員との徹底した対話活動をお願します」と力強いメッセージが述べられました。

日本製鉄労働組合連合会 第６期役員選挙結果

日本製鉄労働組合連合会第６期役員選挙において、和歌山労組特別執行委員である稲垣利光さんが代議員全員の新任を受け、本部執行委員として確認されました。

引き続き、ご支援ご協力をよろしくお願いします。


稲垣本部執行委員
(製鋼支部)

日本製鉄労連第6期運動方針（案）に対する和歌山労組の補強意見


和歌山労組を代表し発言する
大田執行委員

ご安全に、和歌山労組 代議員の大田です。

連合会第６期運動方針（案）に対し、原案賛成の立場を表明したうえで、２点について補強意見を申し述べます。

まずは、「雇用基盤の確立に向けた企業・グループ経営対策の強化」についてであります。

本年３月に会社より発表された「日本製鉄グループ中長期経営計画」では、関西製鉄所和歌山地区における「生産設備構造対策」が完遂していない中での新たな設備休止や一部設備の休止前倒し施策であり、当初は組合員から落胆と将来を不安視する声が多く挙がりました。

しかしながら、発表直後より労使で連携し、当該職場へ説明を重ねてきたことにより、現在では高炉１基での最適生産体制のもと、厳しい環境下においても競争に勝ち抜くためには、生産体制のスリム化と効率化等を進めていかなければならないとの機運が高まりつつあります。そのような中、カーボンニュートラル、脱炭素社会への動きが加速してきており、和歌山地区は石油掘削やラインパイプ等のシームレス鋼管が主力製品でもあることから、各製品の市場価値が失われていくのではないかという新たな不安が顕在化しております。

将来に亘り、組合員の雇用を守るためには、カーボンニュートラルの潮流下で新たに創出される鋼管需要を捕捉していくことが必須となります。直近の新たな需要として、二酸化炭素を回収して地下に貯蔵するCCSや、代替エネルギーとして注目されている地熱発電用の掘削井の受注が始まっているとの情報もあります。連合会におかれましては、新たな需要の捕捉に対する提言等、経営へのチェックとフォローをお願いします。

次に、「村田きょうこ」氏の必勝に向けてであります。

脱炭素社会への対応が求められている中、鉄鋼産業がゼロカーボン・スチールを実現するためには、国の支援が必須であることから、第26回参議院議員選挙において「村田きょうこ」氏を我々の代表として何としても国政に送り出すことが必要不可欠であります。

このような中、和歌山労組では先般実施した「JBU原点運動」において、日本製鉄労連の対話テーマを活用し、執行部・支部連携のもと全組合員に政策実現活動の重要性や基幹労連の政策の代弁者である組織内議員の存在意義を説明して参りました。とりわけ、石炭の免税措置については、我々の一時金にも大きく影響しており、組合員から「非常に分かり易い」と好評を得たところです。

今後も労働組合が推薦する議員の必要性について、新たに運用を開始したSNSや前期から実施している政策実現研修会等の場を活用し情報発信をしていきますので、連合会におかれましても政策実現の理解をより一層深めることができる情報発信を引き続きお願い

致します。

最後に、関西製鉄所和歌山地区においては、休業災害こそ発生していないものの、不休や軽処置災害が頻発しています。労働組合の最優先課題は「安全と健康の確保」であることを今一度肝に銘じ、労使・直協が一丸となった安全活動を展開して参ります。そして、組合員とそのご家族の「生活の安心と安定」をより確かなものにすべく、日本製鉄労連の各種活動に対し和歌山労組全組合員が一丸となって積極的に協力・支援していく決意を申し述べ、補強意見とさせていただきます。

ご安全に。

基幹労連「第19回定期大会」報告

去る９月９日(木)から 10 日(金)にかけて、Web 形式により基幹労連第 19 回定期大会が開催されました。



神田中央執行委員長挨拶

【神田中央執行委員長挨拶要旨】

新型肺炎 COVID-19 の感染拡大から１年９カ月、未だに私たちの命と生活を脅かし、さらには変異種等によって再拡大が続いている。この間息つく暇もない状況の中で、長期にわたり献身的な対応をされている医療従事者をはじめとする関係各位に、そして私たちの生活と社会を守っていただいている多くのエッセンシャルワーカーの皆さんに重ねて感謝を申し上げる。

先の大会で私は、以下の点について触れた。私たちは、2016 年の第 24 回参議院議員選挙総括を受け策定した「組織力の再生戦略」にもとづき、掲げた課題対処のために種々の取り組みを進めるとともに、引き続き検討を要する課題の整理も進めてきた。これらは、ただ単に労働組合の政治活動の強化だけではなく、労働運動の原点となる一人ひとりの力合わせが事を成すことを体現し、さらなる組織の強化、結束を図り、次なる高みをめざすためのものである。

そして、前回の加盟組合代表者会議においては、諮問会議委員をはじめとする皆に大変な気苦労とご心配をかけ、悩みに悩んだ。その上で、互いの想いは、組織の強化を果たし、政治のプロセスを通じた幸せづくりのために第 26 回参議院議員選挙における基幹労連から候補者を擁立し戦うという判断に至った。そのことが二度三度にわたり苦労をかけっぱなしの各単組・支部役員、職場委員の皆さんに、今度こそ勝って笑顔と誇りを取り戻していただく、そのもとで組織力量のさらなる強化をはかる、そして、私たちが進める運動の新たなトリガーになると信じたからだ。

頼みの綱は、第一線で働く組合員の皆さん、基幹労連と JAM の仲間たち。捲土重来を期し、次につなげる戦いにしていかなければならない。

この思いは決して変わらない。勝つための政策判断はすべての責任を負う。各加盟組合・構成組織、県本部・県センターが一丸となって、第一線の仲間に理解をいただき、「村田きょうこ」とともに勝利の２文字をつかみ取ろう。

第49回衆議院議員選挙
和歌山労組推薦議員の紹介

和歌山１区　岸本　周平（きしもと　しゅうへい）



プロフィール

- 国民民主党 幹事長代理
  選挙対策委員長
  組織・団体委員長
- 国民民主党 和歌山県連代表
- 世界の子どもたちのために
  ポリオ根絶を目指す
  議員連盟 幹事長
- NPO 議員連盟 事務局長
- 日韓議員連盟 事務局長代理

和歌山２区　ふじい　みきお



プロフィール

- 1986 年　司法試験合格
- 1989 年　弁護士登録
  （沖縄弁護士会）
- 1995 年　和歌山弁護士会に
  弁護士登録
  和歌山市に「トライ
  法律事務所」開設
- 人権擁護委員会委員長
- 和歌山弁護士会会長などを歴任
- 愛称：ミッキー

和歌山労組は岸本周平議員、ふじいみきお氏を支援しています